

## 静岡産業大学経営学部研究紀要執筆要項

この要項は、静岡産業大学研究紀要規程第 7 条（投稿）第 3 項の規定に基づき、必要な事項を定める。

1. 原稿は締切期日を厳守し、経営研究所運営委員会に提出する。
2. 静岡産業大学研究紀要規程第 7 条（投稿）第 2 項により条件付採択とされた場合は、原則として 2 週間以内に修正原稿を提出するか、修正を行わない理由を記した書面を経営研究所運営委員会に提出する。
3. 原稿は横書きとする。ワードプロセッサを用い、A4 判用紙に邦文は 40 字×30 行程度、欧文は 75 字×40 行程度で印刷したものを提出する。その場合、印刷の間違いを防止するため、原則として原稿フロッピーも同時に提出する。やむを得えず手書き原稿用紙を提出する場合は、経営研究所運営委員会に相談することとする。
4. 原稿の表紙に題名、欧文タイトルおよび氏名を明記する。
5. 原稿の種類は、「論文」「研究ノート」「資料紹介」「書評」「学会展望」「新刊紹介」および「翻訳」とし、上記以外の原稿の種類については運営委員会で検討する。
6. 原稿の種類名を表紙左上に明記する。
7. 「翻訳」は翻訳者が翻訳権を事前に取得する。
8. 原稿字数は、脚注、図、および表を含めて下記のとおりとする。
  - 「論文」は、20,000 字程度
  - 「研究ノート」「資料紹介」は、12,000 字程度
  - 「書評」は、5,000 字程度
  - 「学会展望」「新刊紹介」は、3,000 字程度
  - 「翻訳」は、20,000 字程度
9. 原稿は、原則として現代かなづかい、および常用漢字を使用する。
10. 注は、脚注とする。よって脚注欄に書くか、本文原稿末に挿入する。
11. 注番号は、本文中の右肩に 1) 2) 3) ……のように書き、通し番号とする。
12. 図および表の見出しは、第○図、第○表とし、各々通し番号をつけ、出典をそれらの下に明記する。
13. 連載原稿は、括弧付アラビア数字とする。例（1）（2）…
14. 目次は、原稿の最初に記す。

15. 原稿中における章、節および項は原則として下記のとおりとする。  
章は大見出しとし、I、II、III、……（ローマ数字大文字）を用いる。  
節は中見出しとし、1、2、3、……（アラビア数字）を用いる。  
項は小見出しとし、(1)、(2)、(3)、……（括弧付アラビア数字）を用いる。
16. 引用文については、邦文は「」、英文は“ ”とし、引用文中の引用文についてそれぞれ『 』、‘ ’を用いる。ただし独・仏・伊・露文等はそれぞれの慣行に従う。
17. 邦文の著書、雑誌名は『 』、論文名は「 」で囲む。
18. 欧文の著書、雑誌名はイタリック体を用いる。
19. 邦文の引用文献および参照文献の表示の仕方は、下記のとおりとする。  
単行書：著者、書名、発行所、発行年、引用および参照文献のページの順とする。  
例：守永誠治『非営利組織体会計の研究』慶応通信、平成元年（1989年）、28～30ページ。  
論文：著者、論文名、雑誌名、巻号、発行年、引用および参照ページの順とする。  
例：小林達夫「水資源の開発・管理と日本史における政治権力の独立（1）」『環境と経営』（静岡産業大学）第1巻第2号、1995年10～12ページ。
20. 欧文の引用文献および参照文献の表示の仕方は、下記のとおりとする。  
単行書：著者、書名（イタリック体）、発行地、発行所、発行年、引用及び参照ページの順とする。  
例：Paul A. Samuelson, *Economics* 13th ed., New York, McGraw-Hill, 1989,  
イタリック  
pp. 100～102.  
または  
Samuelson, Paul A., *Economics* 13th ed., New York, McGraw-Hill, 1989,  
イタリック  
pp. 100～102.  
論文：著者、論文名、雑誌名（イタリック体）、巻号、発行年、引用および参照ページの順とする。  
例：Randall A. Bluffstone, “The Effect of Labor Market Performance on Differentiation in Developing Countries under Open Access : Example from Rural Nepal”, *Journal of Environmental Economics and*  
イタリック  
*Management*. Vol. 29, No. 1, 1995, pp. 42～45
21. 文献に関する情報は、上記のように初出時に正確に記し、2回目以降の引用に際しては、前掲書・前掲論文、ibid. op. cit. idem. は使用せず、長い場合は、読者に明示的になるように書名・論文を簡略化して表記する。  
例えば、守永誠治『非営利組織体会計の研究』は、守永『研究』とする。ページをも表記する。  
小林達夫「水資源の開発・管理と日本史における政治権力の独立（1）」『環境と経営』は小林「水資源の開発・管理」とする。ページをも表記する。

Paul A. Samuelson, *Economics* 13th ed., は Samuelson, *Economics* と略記する。  
イ タ リ ッ ク

ページをも表記する。

Randall A. Bluffstone, “The Effect of Labor Market Performance on  
Differentiation in Developing Countries under Open Access : Example from Rural  
Nepal” は、Bluffstone, “The Effect of Labor Market Performance” と表記する。  
ページをも表記する。

22. 邦文著書の「書評」「新刊紹介」は原稿末尾に発行所、発行年月、判型、ページ数および定価を括弧内に明記する。

例：(日本経済評論社、1995年4月刊、A5版、546ページ、6180円)